

平成29年度 租税教育実践例（第5学年家庭科）

登米市立柳津小学校
教諭 佐藤 育子

1 はじめに

小学校家庭科において租税教育と関連が深いのは、学習指導要領「D 身近な消費生活と環境（1）のア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること」である。

児童の日常の様子から、えんぴつや消しゴムなどの学用品を落としても、自分の物という意識が低く、物を大切にしようとする気持ちがあり見られないとすることが多い。また、月々のお小遣いをもらっている児童は数名で、自分で買い物をするという経験が少ないという実態がある。

そこで、単元「めざそう買い物名人」を設定し、自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付かせ、買い物についての実践的な能力と態度を身に付けさせたいと考えた。

さらに、買い物をするときには消費税が発生することから、税金について理解させ、日常生活の基礎的・基本的な知識を広げさせ、金銭感覚を高めさせたい。

2 単元学習計画

単元名 めざそう買い物名人 （全7時間）

時間	学習のめあて	学習活動
1	○ 生活を支えるお金の大切さを考え、買い物の仕方を見直そう。	○ 日常生活のどのような場面でお金を使っているか話し合う。 ○ 毎日の生活のためにはお金が必要であることを確かめる。 ○ 買い物には消費税が発生することや公共施設の利用から税金に関心をもたせる。 ○ 買い物名人とはどんな人のことか話し合う。
2 本時	○ 消費税などの税金について知り、物や金銭の大切さについて考えよう。	○ 買い物をする際に発生する消費税などの税金について知る。 ○ 税金がどのように使われているかを知る。 ○ 消費税などの身近な税金について知ることで、物や金銭を大切にしようとする。
3 ・ 4	○ 目的に合った計画的な買い物ができるようにしよう。	○ 欲しいものを挙げ、教科書の表や流れ図の矢印に沿って考える。 ○ 欲しいものについて、流れ図に沿って考えた結果を交流し、意見交換をする。 ○ 「買い物の手順」を基に、計画的な買い物の仕方を話し合う。 ○ 目的に合うものを選ぶ観点をまと

		める。
5	○ 目的に合った計画的な買い物ができるようにしよう。	○ 商品を選ぶ手掛かり（情報）を選ぶ。 ○ 商品の表示やマークの意味を知る。 ○ 活動4に沿って、自分はどのノートを選ぶか考えて、理由と結果を交流する。 ○ 買い物の記録や振り返りの大切さを話し合う。
6 ・ 7	○ 買い物名人としてどんな工夫ができるか考えよう。	○ 自分が考える買い物名人とは…。 ○ おみやげなどを買う計画、買った反省、身近な物の選び方、買い方のまとめ。 ○ 物やお金の生かし方。

3 出前授業から

学習過程

	○学習活動 G：ゲストティーチャー・児童の反応	○指導上の留意点 【評価】
つかむ5分	1 本時の学習内容を知る。 どのような税金があるのか、税金はどのように使われているか知り、物やお金の大切さについて考えよう。	○ 子どもたちにも身近な消費税などの税金はどのように使われているか考えさせる。
考える35分	2 ゲストティーチャーの話を聞き、税金について知る。 G 皆さんの知っている税金には何がありますか。 ・消費税 ・自動車税 ・所得税 ・固定資産税 ・酒税 ・たばこ税 3 税金として集められた総額を知る。 G 全部の税金を合わせるとどのくらいの金額になると思いますか。 ・分からない ・たくさん ・何億とか何兆とか？ G 正解は、57兆円です。50種類の税金で57兆円の税金が集められています。 4 1億円のレプリカを実際にもってみる。 G 今日は、1億円のレプリカを持って	○ たくさんの税金があることに気付かせる。 ○ たくさんの種類の税金が集められていることを知り、どのくらいの金額が興味をもたせる。



	きたので、持ってみましょう。 ・思っていたより、重い。  5 自分たちの身近な学校でどのように税金が使われているかを考える。 G みんなの学校も、税金で建てられているんだね。 ・教科書も税金で作られているんだ。	○ 1億円のレプリカを持つことで、実際の金額の大きさをイメージしやすくする。 ○ 税金を身近に感じさせるために、学校の中の物や生活を振り返らせ、具体的に税金の使われ方を理解させる。 【関心・意欲・態度】税金がどのようなことに使われているかに関心をもっている。
振り返る 5分	6 感想を発表する。	○ 消費税などの税金の使われ方などについて知り、物や金銭の大切さに気付かせる。

4 租税教室や税金に関する家庭科の授業の感想

- ・ 買い物をする際にも、よく考えて買うようにして、お金や物を大切にしていこうと思いました。
- ・ 自分も消費税などの税金を払っていてよかったと思いました。
- ・ 消費税などの税金は、自分たちも協力できることだと感じました。
- ・ 税金を何に使っているのかがよく分かり、物だけでなく建物などの公共施設も大切に利用しようと思いました。
- ・ 家族が頑張って働いた税金が、教科書になっていることが分かったので、全ての物を大切にしようと思いました。



5 成果○と課題●

- 登米法人会の方に協力をいただいて、租税教育を実施することができ、専門的な知識と情報、工夫された教材により児童の税に対する関心を高めることができた。
- 身近な税金である消費税も、自分たちの暮らしに役立っていることを知り、金銭や物を大切にしようとする気持ちをもたせることができた。
- 「欲しいから買う」というのではなく、本当に必要かを検討するなど、物を買うことへの考え方に変化が見られた。
- 物や金銭の大切さに気付くことはできたが、児童は、実際に買い物をした経験は少ない。6年生の修学旅行に向けて、計画的に買い物をする経験を積んでいくなど家庭と連携を図っていくことも必要だと考える。